



— 冬休みを迎えて —

8月20日から、4カ月あまり。例年より少し長い2学期が終わりました。文字通り、暑い日も寒い日も、毎日学校へ送り出していただいた御家族の皆様、心から感謝いたします。今年の冬休みは、家で過ごす時間が長くなるかもしれませんが、ゆっくりエネルギーの充電をしていただくとともに、年末年始の行事等の貴重な体験を、ぜひお子様と一緒に味わっていただきますよう、お願い致します。

過ごし方のヒント

2020. 12. 24



身体と心は、
つながっています。

1 まかせてみる



料理や掃除をお子様と一緒にすることは、よくありますね。冬休みは、少し思い切って、「子どもにまかせてみる」チャレンジをしてみても？もちろん、安全には気をつけて、こっそりのサポートは必要です。言い換えれば、子どもが「全部任されたから、わたし(ぼく)が責任者。」と感じられるように仕組んでいく、ということです。

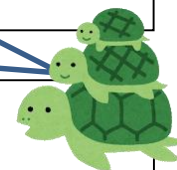
例えば「今日のおやつは、ホットケーキにしようと思うけれど、用事があるから〇〇〇(お子様)が作ってくれる？」とお願いしたら、ボール、ホットプレート、お皿、といった道具や材料の準備から、家族に給仕して片付けまで一通りのことを、全部してもらおうのです。一部分だけお手伝いすることも意義がありますが、最初から最後までの流れを体験することは、一段と成長のステップアップを期待できます。算数の文章題で、答えに至るまでの見通しをもって、式を組み立てて解いていく力とも、大きく関係しています。

2 白黒はっきり……させないのもいいかも

「竹を割ったような」「潔い」「きっぱりと」etc…気持ちがすっきりする言葉です。物事がこんな風に進めばいいのですが、現実はそのいきません。特に、子育てに関しては…。

答えの出ない事態に耐える力を「ネガティブ・ケイパビリティ」(負の力)といます。拙速な理解ではなく、「謎を謎として興味を抱いたまま、宙ぶらりんの、どうしようもない状態を耐え抜く力」。こんな力を身に付けた上で、ここぞという時に決断できる大人って、かっこいいですね。一人では難しくても、家族と一緒になら、こんなかっこいいこともできそうな気がします。コロナ禍の今こそ、大人に必要な力かもしれません。

内容を理解した後、それを使いこなす問題を解くことができるようになるまでには、かなり、時間がかかります。



3 宿題は一緒に

学校で一番、子どもが一生懸命になる時ってどんな時でしょう？

答えは、先生が子どもと一緒に「うーん、どうやったらいいか、どうなっているのか、一緒に調べて考えよう。」と辞書や図書館で調べている姿を見る時です。先生もよく分からないようなすごいことを、自分たちは、考えて答えを見つけようとしているんだ、先生より先に見つけるぞ！とやる気がぐーんと高まるのです。ぜひ、この方法をお家でもご活用ください。